

事例 3：宮城県仙台市の事例

100万人都市で展開する総合的な高齢者うつ対策事業

1. 本事業の特徴

普及啓発、アセスメント、相談、訪問、ケースマネジメントにわたる総合的なプログラム。人口規模の大きな都市でも実施可能なように、事業全体が高度に組織化されているのが特徴である。相談プログラムは精神保健事業とリンクし、訪問による介入では、精神科医の指導の下で、訪問看護師による問題解決療法的なアプローチが行われている。

2. 自治体の概要

【仙台市の特徴】仙台市は宮城県の中央部に位置する東北地方最大の都市で、平成元年に政令市に指定されている。県内の他市町村に比べると高齢化率は低いが、高度成長期に造成された大規模住宅地では高齢化が急速に進んでおり、ソーシャルサポートの不足など、高齢者の孤立の問題も深刻である。
【人口】1,031,961人（H21.1.1）【高齢化率】17.7%



3. 事業の体制づくり

【事業開始のきっかけ・経緯】本事業は、東北大学との共同研究「鶴ヶ谷プロジェクト」の中で開発されたものである。この研究では、高齢者総合機能評価（CGA）、運動機能の低下している高齢者に対する運動指導、うつ状態にある高齢者への地域介入などが行われ、それぞれの効果が検証されている。うつ状態にある高齢者への地域介入では、本プログラムの実施によって、うつ状態にある高齢者の精神的健康度が改善し、自殺念慮が減少することが確認された。【実施までの準備内容】介入研究終了後、「抑うつ状態高齢者等地域ケア事業」の名称でモデル事業化し、平成17年10月からは研究地区を含む宮城野区全域へ拡大、平成19年度以降は事業の全市化に向けて準備が進められている。

4. 実施状況

事業は以下のプログラムで構成されている。A.普及啓発プログラム：うつ病の理解を広める。B.アセスメントプログラム：うつ病を発見して治療とケアに結びつける。C.相談プログラム：さまざまな悩みごとに応じ、うつ病やその他の精神疾患を診断したり、必要な情報を提供したり、医療機関と連携したりする。D.訪問プログラム：うつ病に対する心理社会的ケアを継続的に提供する。E.チームによるケースマネジメント：複雑で多様な問題を解決していくために、対策を練ったり計画を立てたり、役割分担をしてチームで関わっていく。



仙台市全域の地域包括支援センター職員を対象とする研修会



多職種で行われているケースカンファレンス